



1. 制度概要

制度概要

- 地方独立行政法人法に基づき、知事が議会の議決を経た上で中期目標を策定
- 研究所は当該中期目標を基に中期計画を策定し、調査研究などの業務を実施
- 知事は研究所の毎年度の業務実績等について評価を行い、その結果を議会に報告

令和7年度の評価対象

令和6事業年度の業務実績に関する評価

※外部の学識経験者等で構成される「大阪府立環境農林水産総合研究所評価委員会（令和7年7月開催）」から意見聴取



(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

2. 令和6事業年度の業務実績に関する評価結果

評価結果

全体評価：全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している。

(以下1から3の項目全てにおいてA評価（目標どおり達成）)

■ 評価委員会の主な意見

- 水産分野においても、大阪のオリジナル品種ぶどう「虹の雫」のようなブランド化も含め、積極的な研究・支援にさらに取り組んでほしい。
- 大阪の農家・農地を守るという観点からも、農作物の高温耐性品種の導入実証に向けた研究を、引き続き期待している。

主な取組実績 ※S・A～Dの5段階評価（うち A評価＝計画どおり）

1. 府民サービスに係る技術支援の実施及び知見の提供 A評価

- 大阪・関西万博に出展しているアควアポニックス「いのちの湧水（いずみ）」に**食品残渣で飼育したアメリカミズアブを含有した飼料を研究所が提供。水耕栽培と陸上養殖を組み合わせた循環型農業生産システムに貢献。**
- 牡蠣の生食ニーズが高まるなか、**養殖マガキの貝毒検査**について**安価で迅速に貝毒を判別できる簡易受託研究制度を新たに構築**。制度を活用することで、漁業者自身による検査が可能となるなど体制の充実が図られた。
- 大阪産（もん）農産物を活用した「**泉州水なすのフリーズドライ味噌汁**」等の商品化や、**水なす漬の減塩等の技術開発等を通じ、食品事業者への技術支援を行った。**



泉州水なすのフリーズドライ味噌汁



大阪・関西万博のアควアポニックス

2. 調査研究の効果的な推進 A評価

- カーボンニュートラルの取組として、**農林・水産分野において、炭素吸収や貯留の調査・知見の収集を行うとともに、ぶどう、桜、水稲など地球温暖化による生育への影響に関する調査等を実施**。（桜に関しては、得られた知見を基に令和7年1月に切り枝を冷蔵貯蔵し、6月の大阪・関西万博に開花状態で出展した。）
- 農業大学校において、働く世代などの新たな**農業の担い手育成を図るため、新規就農を希望する社会人や、農業参入企業の社員等を対象に、1年間で講義から実践まで学ぶことができる短期実践課程を創設**した。また、Web授業を導入し、社会人等が**学びやすい魅力的なカリキュラムの充実を図った**。



カキ養殖に関する勉強会の様子



万博開催に向け、6月に開花した桜



農大実習の様子

3. 業務運営、組織運営、財務内容等の改善と効率化 A評価

- 外部資金の獲得向上に向けた取組を進め、**着実に資金を獲得**した。
(第3期中期計画までの平均 約62,000千円 ⇒ R6 69,593千円)
- 重点テーマ等の**調査研究課題等について、所内横断体制で取り組む、プロジェクト・ラボラトリー（プロ・ラボ）を始動**した。